

子供がかかりやすい感染症とその取扱い

(見やすい箇所に貼ってください)

		病名	潜伏期間	感染経路	主な症状と経過	予防接種	登園基準	留意事項
登園許可書が必要	医師の意見書必要	1 麻疹 (はしか)	8～12日	咳、くしゃみなどによる飛沫	咳、鼻水、結膜充血、目やにではじまり、つづいて発熱。いったん熱が下がって、さらに上がると同時に発疹。口の中にコブリック斑ができる。	有	解熱後3日を経過するまで。	感染力が強いので、予防接種をしたほうが良い。肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳炎に注意する。
		2 風疹 (三日ばしか)	16～18日	唾液による飛沫	初め軽い発熱。同時にこまかい発疹が全身にでる。首、後頭部、耳後リンパ腺が腫れる。3～4日で発疹が消える。	有	発疹がなくなるまで。	髄膜炎に注意する。妊娠初期は要注意する。
		3 水痘 (水ぼうそう)	14～16日	唾液による飛沫、接触	発熱(出ない場合もある)周りに赤みのある丘疹が、3～4日で次々に水疱になり2～3日でかさぶたになる。かゆみが強い。	有	すべての発疹が、かさぶたになるまで。	かゆみがあるので、かかないようにし、爪を短く切る。
		4 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ・ムンプス)	16～18日	唾液による飛沫	発熱(出ない場合もある)耳の下、顎の下が腫れる。口をあけたり食べたりすると、痛む。	有	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腺腫が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良いこと。	髄膜炎、難聴、脳炎・脳症、精巣炎、卵巣炎に注意する。
		5 結核	3か月～数年 10年	空気	慢性的な発熱(微熱)、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ。	有	医師により感染の恐れがないと判断されるまで。	入園前には予防接種をしたほうが良い。
		6 咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	接触、経口、飛沫	高熱、咽頭痛、目やに、眼の充血。首のリンパが腫れる。	無	主要症状消失後、2日を経過するまで。	年間を通じて発生するが、特に夏に流行がみられる。
		7 流行性角結膜炎	2～14日	飛沫、接触	目の充血、目やに。幼児の場合、目に膜が張ることもある。片方の目で発症した場合、もう一方の目に感染することがある。	無	結膜炎の症状が消失していること。	特に夏に流行する。手洗いの励行を行う。多くの場合、自然経過で治癒する。
		8 百日咳	7～10日	唾液による飛沫	1～2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ、つづいて特有の咳(コンコン、ヒューヒュー)が2～3ヶ月つづく。	有	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること。	肺炎、中耳炎、脳症に注意する。特に乳児は重症になりやすい。
		9 腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	O157は3～4日。他は主に10時間～6日。	接触、経口	水様下痢便、腹痛、血便。	無	医師により感染の恐れがないと判断されるまで。	衛生的な食材の取り扱いと十分な加熱調理、オムツの取扱いに注意する。
		10 急性出血性結膜炎	ウイルスの種類により、平均24時間又は2～3日と差がある。	接触、飛沫	強い目の痛み、目の結膜(白眼の部分)の充血、結膜下出血、目やに、角膜の混濁。	無	医師により感染の恐れがないと判断されるまで。	目やにや分泌物には触れない。洗面具やタオル等の共有をしない。
		11 侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	4日以内	飛沫、接触	発熱、頭痛、嘔吐。急速に重症化する場合があります。紫斑を伴いショックに陥る。	有	医師により感染の恐れがないと判断されるまで。	発症した場合には、抗菌薬により治療される。
保護者の登園届必要	保護者の登園届必要	1 溶連菌感染症	2～5日	飛沫、接触	突然の高熱、つづいて全身に発疹(口の周りには出ない)のどが赤く、舌はイチゴ状になる。熱が下がると皮膚が膜状にむけてくる。	無	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること。	回復期にリウマチ熱、腎炎に注意。
		2 マイコプラズマ肺炎	14～21日	飛沫	咳、たんのからんだ咳、発熱、呼吸困難(重症の場合)になる。	無	発熱や激しい咳が治まっていること。	中耳炎、発疹を伴うことがあり重症化することがある。
		3 手足口病	3～6日	飛沫、接触、経口	口腔粘膜と手足の末端に水泡性発疹が生じる。また、発熱とどの痛みを伴う水泡が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水泡が生じる。	無	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるまで。	手洗いの励行。便からは数か月間ウイルスが排出されるため、おむつの排便処理の際には手袋をする等の対応を行う。
		4 伝染性紅斑 (りんご病)	4～14日	飛沫、接触	両ほほに蝶のような形の紅斑。	無	全身状態が良いこと。	発疹は1～2週間続く。
		5 ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス感染症)	12～48時間	飛沫、接触、経口	嘔吐、下痢。多くは1～3日で治癒する。	無	嘔吐・下痢等の症状が治まり食事ができるまで。	脱水症状に注意。手洗いの励行。
		5 ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス感染症)	1～3日	飛沫、接触、経口	嘔吐、下痢、白色便となる。多くは2～7日で治癒する。	有	嘔吐・下痢等の症状が治まり食事ができるまで。	脱水症状に注意。手洗いの励行。
		6 ヘルパンギーナ	3～6日	飛沫、接触、経口	夏風邪の一種で高熱が数日続き、のどの奥に小さな水泡ができる。	無	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。	春から夏にかけて流行する。
		7 RSウイルス感染症	4～6日	飛沫、接触	軽い咳、鼻水。	無	呼吸症状が消失し、全身状態が良いこと。	手洗い、マスクの励行。特に生後6か月未満の乳幼児は重症化しやすいので注意。
		8 帯状疱疹	不定		軽度の痛み、かゆみがあり、その後、多数の水疱が集まり、紅斑となる。発熱はほとんどない。	無	すべての発疹が、かさぶたになるまで。	痛みがある場合には、患部を温めると痛みが和らぐ。
		9 突発性発疹	9～10日		3日間程度の高熱の後、解熱すると同時に全身に発疹が出る。	無	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと。	通常は自然経過で治癒する。
		10 インフルエンザ	1～4日	飛沫、接触	風邪の中でも最も重い症状(高熱、頭痛、関節炎)である。	有	発症後5日かつ解熱後3日経過するまで。	気管支炎、肺炎、中耳炎、熱性けいれん、急性脳症等に注意。
11 新型コロナウイルス感染症	5～14日	飛沫、接触	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常の症状。	有	発症後5日かつ症状が軽快した後1日を経過するまで。	「症状が軽快」とは、解熱剤を使用せずに解熱かつ呼吸器症状が改善傾向にあること。		

登園のめやすは子どもの全身状態が良好であることが基準となります。

登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断に従ってください。